



トラブルシューティング

この章は、次の項で構成されています。

- [最後の起動プロセスの記録](#) (1 ページ)
- [最後のクラッシュの記録](#) (2 ページ)
- [DVR Player のダウンロード](#) (3 ページ)

最後の起動プロセスの記録

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。

ステップ2 作業ウィンドウの [TroubleShooting] タブをクリックします。

ステップ3 [Troubleshooting] タブの [Bootstrap Process Recording] 領域で、[Enable Recording] チェックボックスをオンにします。

デフォルトで、このオプションは有効になっています。

注意 このタスクはトラブルシューティング目的のもので、常に有効にしていると CiscoIMC パフォーマンスに影響する場合があります。

ステップ4 (任意) BIOS POST するまで起動プロセスを記録する場合は、[Stop On BIOS POST] チェックボックスをオンにします。

ステップ5 [Save Changes] をクリックします。

ステップ6 [Work] ペイン上部のツールバーで、[Power On Server] をクリックします。

ステップ7 [Bootstrap Process Recording] ペインの [Actions] 領域で、[Play Recording] をクリックします。

サポートされている Java バージョンに関する手順を示した確認ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ8 手順を確認し、[OK] をクリックします。

■ 最後のクラッシュの記録

[DVR Player Controls] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスは、最後の起動プロセスの記録を再生します。[Stop On BIOS POST] オプションをイネーブルにしている場合は、システムは BIOS POST まで記録プロセスを再生します。

この記録を確認して、システムがリブートした要因を分析できます。

ステップ 9 [Bootstrap Process Recording] 領域の [Actions] 領域で、[Download Recording] をクリックします。

ダウンロードするには、手順に従ってください。

(注) ファイルがローカル ドライブに .dvc 形式で保存されます。KVM プレーヤーまたはオフラインプレーヤーを使用してこの記録を表示できます。[Download Recording] オプションを選択するたびに、最後の起動プロセスが記録され、ファイル名が自動生成され、事前に指定されたパスに保存されます。

ステップ 10 ダウンロードが完了すると、記録のビデオを再生するファイルを選択できるので、選択して [Open] をクリックします。

[DVR Player Controls] ウィンドウが開き、選択したファイルのビデオが再生されます。

最後のクラッシュの記録

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。

ステップ 2 作業ウィンドウの [TroubleShooting] タブをクリックします。

ステップ 3 [Troubleshooting] タブの [Crash Recording] 領域で、[Enable Recording] チェックボックスをオンにします。

注意 このタスクはトラブルシューティング目的のもので、常に有効にしていると Cisco IMC パフォーマンスに影響する場合があります。

ステップ 4 [Save Changes] をクリックします。

[Actions] 領域の [Capture Recording] ボタンがイネーブルになります。

ステップ 5 (任意) [Actions] 領域で、[Capture Recording] をクリックし、自動的にクラッシュしたシステムの記録をキャプチャします。

(注) このオプションを選択すると、既存のクラッシュ レコード ファイルが上書きされます。[OK] をクリックして作業を続行します。

ステップ 6 サーバ上で実行された操作の記録を表示するには、[アクション (Actions)] 領域の [メッセージを再生する (Play Recording)] をクリックします。

サポートされている Java バージョンに関する手順を示した確認ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ7 手順を確認し、[OK] をクリックします。

[DVR Player Controls] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、最後の数分にサーバ上で実行された操作の記録を再生します。この記録を確認して、システムがクラッシュした要因を分析できます。

ステップ8 [Crash Recording] 領域の [Actions] 領域で、[Download Recording] をクリックします。

ダウンロードするには、手順に従ってください。

(注) ファイルがローカル ドライブに .dvc 形式で保存されます。KVM プレーヤーまたはオフラインプレーヤーを使用してこの記録を表示できます。[Download Recording] オプションを選択するたびに、最後のクラッシュプロセスが記録され、ファイル名が自動生成され、事前に指定されたパスに保存されます。

ステップ9 ダウンロードが完了すると、記録のビデオを再生するファイルを選択できるので、選択して [Open] をクリックします。

[DVR Player Controls] ウィンドウが開き、選択したファイルのビデオが再生されます。

DVR Player のダウンロード

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。

ステップ2 [サーバ (Server)] タブの [トラブルシューティング (Troubleshooting)] をクリックします。

ステップ3 [Troubleshooting] タブの [Player] 領域で、[Download Player] をクリックします。

ステップ4 ダウンロードするには、手順に従ってください。これらのファイルは、ローカル ドライブに .tgz ファイル形式で zip 化されたファイルとして保存されます。

オフライン プレーヤーは、Windows、Linux、および MAC で保存されます。

ステップ5 zip ファイルを解凍します。zip ファイルは通常、ポートストラップファイル下に保存され、名前は形式 offline.tgz に従います。

ステップ6 ビデオ録画を確認したいスクリプト ファイルを開きます。

(注) Windows で録画を再生する場合は、システムで起動している Java バージョンとスクリプト ファイル内のバージョンが同じであることを確認します。Windows のスクリプト ファイルが録画を再生しない場合は、次の手順に従います。

- Windows のスクリプト ファイルをデスクトップに抽出します。

- b) メモ帳を使用してファイルを開きます。
- c) jre を検索し、システムで起動しているバージョンと一致するよう Java バージョンを置き換えます。デフォルトでは、Java のバージョンは jre7 に設定されています。
- d) ファイルを保存します。

Java のバージョンを更新したら、抽出したファイルをデスクトップから削除できます。

(注) Java のバージョンの検証は Windows OS にのみ必要です。Linux および MAC の場合は、Java のバージョンが自動的に選択されます。

ステップ7 スクリプトファイルがダウンロードされるフォルダに移動し、ビデオ録画を再生するスクリプトファイルを開きます。

DVR プレーヤーが開始され、サーバ上で実行された操作のビデオが再生されます。
